

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272101015		
法人名	有限会社サニーライフ		
事業所名	グループホームサニーライフ		
所在地	〒038-2501 青森県西津軽郡深浦町大字柳田字桜田34番地5		
自己評価作成日	令和3年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和3年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれて四季折々の変化が楽しめ、穏やかな気持ちで過ごせる環境です。入居者様の平均年齢も高くなるにつれ出来なくなることが多くなっています。お一人お一人の残存機能を活用できるよう職員がサポートさせていただき、寄り添いながら毎日を笑顔で過ごせるよう工夫をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

国道沿いに位置し、前面に海、背後が山林と豊かな自然に恵まれている。地域住民から野菜や海の幸の差し入れが多く、関係も良好である。戦争体験で辛い時代を生き抜いた高齢者を労りたいという設立時の社長の思いが理念に反映され、入居者を第1に考えたサービスが提供されている。社会の先輩として敬意と感謝の念を持ち、地域の中で穏やかに暮らして欲しいという願いは、職員1人ひとりの日々の関わり(言葉・態度・表情)に具現化されている。職員のチームワークも良好で、意見も出し易く対人援助の面や事業運営にも効果を挙げている。個々の職員の得意分野を活かして内部の装飾や余興の披露で、暮らしやすい環境と楽しみごとを多く持った生活が展開されている。コロナ禍で家族との関係が希薄にならないよう、担当者が毎月、受診や生活の様子メッセージを郵送している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目に付く場所に掲示し職員間で共有しながら入居者様が笑顔で過ごせるように心がけている。	開設時に社長が、辛い時代を生き抜いた高齢者を労りたいという想いで、尊敬と感謝の心で生活を支援する事を目的に理念を掲げている。職員もその思いに賛同し、コミュニケーションを大切に日々の支援の中で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園、小・中学校から行事に招待されたりボランティアの来訪もあったが、今は新型コロナウイルス感染予防の為交流が出来ていない。	コロナ禍により相互交流は叶わない状況であるが、以前は各団体と積極的に交流していた。住民はグループホームの特性を理解しており、有事の際の協力体制や、食材の差し入れ等があり関係性は継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア来所時、運営推進会議等地域の方との関わりを持った際には認知症のある方に対する支援方法や、病気に対し理解をして頂ける様、努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナの影響を受け書面での開催もありましたが、今年は民生委員、地域包括支援センター職員、ホーム関係者の出席で二か月に一回開催し、ホームの状況等を報告し意見や要望等いただくようにしている。	隔月で実施し書面開催が続いていたが、行政の指導で7月から集合で開催している。入居者状況、行事予定、薬の管理、内部研修等の報告を行い、メンバーからの意見で防災無線を設置したり、誤薬への注意喚起を受け現場に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の実情や今後の課題、経過を報告したり不明点などは相談や確認をしながら行っている。	行政からは年間計画で運営推進会議出席予定表が配布されている。又、待機者の紹介やコロナ予防対策の指導があったり、グループホーム側からは面会の再開に向け相談し、制限を設けて実施可の回答を得ており、相互の連絡体制は出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職員会議の中で日頃の支援内容を振り返り疑問点など話し合ったり身体拘束に関する勉強会を開催し身体拘束をしないケアに努めている。	指針が整備され、年4回内部研修を行い、知り得た知識は個々に感想文として提出している。身体拘束に該当する行為や弊害等理解を深め防止対策が徹底され、身体拘束の無いケアが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い自分たちの日頃の関わりに虐待につながる危険が潜んでいないか等、振り返る機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用されている方がおられ、制度を利用した背景等を職員と共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定時は十分な説明を行い理解、納得を図るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からは入浴の時や普段の会話の中で意見や要望を伺っている。またご家族様には 面会時や電話で日々の様子を伝え、さりげない 会話から想いや要望が聴きだせるように努めている。	入居者は入浴時リラックスすると希望を出す事が多く、職員は意図して聞き取りに努め、出来る事は対応している。利用料の窓口支払いの家族に関しては都度、状況報告と意見を頂き難聴が気になり耳鼻科受診を依頼され対応した経緯がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や日頃からコミュニケーションを多くとるようにし、職員の意見や提案を受けて 運営方法を改善したり対応したりしている。	管理者は普段から職員が意見を出し易い環境作りに努め、業務改善の提案や入居者への対応について、個々の生活向上を目指した様々な支援方法の意見が出され実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資質を高めるため勉強会を設けたり資格取得の研修参加ができるようにしている。それぞれの働ける条件を考慮し勤務体制を組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	アンケートをとったり日々の会話で悩みや相談についても聞き、職場環境の改善や個々の状態の把握に努めている。また、個々に目標を立てて向上心を図れる体制を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に外部研修に参加していたが、コロナ感染症防止のため現在は行えていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報や入居者様とのコミュニケーションから得た情報をスタッフ間で共有し、安心した環境を提供できるようにし信頼関係の築ける関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご本人、ご家族が困っていること不安なこと要望などを確認し、今後の支援にご家族の思いが反映できるよう話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にとってどうしたら良いかをご家族様と一緒に考え、必要なサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として昔の習わしや料理法など作り方を教えて頂いている。役割を持って頂き職員から「ありがとう」と感謝の言葉を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には月1回「サニー便り」と個々の詳しい様子をお伝えする手紙も郵送し現状をお知らせしている。時には日用品の購入などもご相談しながら共にご本人様を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防にて外出の機会は減り人との交流も控えているが、ご家族様へは連絡を行い密にならないように面会の実施はしている。ご家族と一緒にかかりつけ医に通院する入居者様もいる。	コロナ禍以前は、盆の墓参りや正月の外泊等家族の協力で実施していた。現在、制限を設けて面会も再開しており双方から喜ばれている。又、毎月思い出巡りと称し実家やお墓等希望の場所へドライブし、記憶に働きかけ関係を維持している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が気持ちよく関わり合いを持てるよう配慮している。また職員が介入し、入居者間を繋ぐ場面もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションを通して入居者様の希望や意向の把握に努めている。職員間で情報を共有し、思いに沿えるよう検討し対応している。	管理者は、日頃から職員のコミュニケーション能力を高めるように、言語・非言語を使い、伝える・聞く・読み解く対応を勧めている。日々繰り返す事により、入居者の思いを把握し希望に沿う対応を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報の確認を行う。またコミュニケーションを図りながら入居者様への理解を深めている。ご家族様からの情報提供も職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のスケジュールはあるが、その日の体調やその方の生活スタイルを崩さないように、職員が会話や動きなど現状把握に努め柔軟に対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、ご家族様の意見や要望をお聞きし、介護計画に反映できるよう努めている。定期的なモニタリングに加え、日々の申し送りの中から得られた情報をもとにケアの見直しを行っている。	半年毎にアセスメントを行い、入居者の変化を把握している。担当者とケアマネジャーで入居者、家族の要望を確認してカンファレンスを行い計画を作成している。毎月の定例会議で計画の進捗状況を担当者が報告し、半年毎のモニタリングに落とし込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人の記録へ落とし込み、気づきをもとにケアの実践を行いながら申し送りの際に共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに対し、職員間で柔軟に話し合い、ご家族様にも相談しながらサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年だと、近くのスーパーに職員と買い物に出掛けたり、ボランティアを受け入れたり、外食を楽しんだり、文化祭に作品を出し、入居者様と見学に出掛けたりしていたがコロナウイルス感染予防の為自粛している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診を行いながら、要望があればご家族様に付き添いで頂き、かかりつけ医に受診面談を行っている。受診の結果はご家族様に報告をしており、情報の共有を図っている。	かかりつけ医は継続しており、受診はグループホームの車輛で職員が付き添い対応している。結果は電話やメールで家族に報告、遠方の病院は家族対応となっている。突発的な受診は事前に家族に連絡し、同行を得ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良の方が出た場合は、医療機関へ連絡を行い状況・状態を報告し、指示やアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は医療連携室に連絡を入れ、その後の情報共有、相談を行うなど関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所の出来ること出来ないことを説明し病状が重度化した場合には入居者様にとって一番良い方法を選択できるようにご家族、主治医、地域連携室等と相談しながら今後の対応方針を決めている。	指針が整備され、契約時に説明している。緊急時や重度化への対応は状態の変化に応じて事前の意志確認書に記入・同意していただいているが、殆どの場合受診を希望し、医師の指示で入院や他事業所への住み替えとなっている。看取り対応の必要性は確認出来ており、課題整備に尽力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様に起こりうる急変やリスクについて検討し対応の仕方を職員間で共有している。普通救命講習を受講しAEDの使用方法を学ぶ予定でしたがコロナ感染予防の為にできていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、町の防災訓練に参加している。自主的な訓練も実施し職員全員が避難方法手順を身につけられるようにしている。	中部地震を教訓に年1回町で地震・津波の訓練を行っており、グループホームでも全員避難で参加している。年2回消防署報告の避難訓練と独自で隔月、様々な災害を想定し訓練を行っている。経営者や親族が近隣に在住し有事の際の協力体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴や性格を把握しながら人格や誇りを傷つけないように言葉かけには十分気配りをしている。尊厳、プライバシーの保護に関する研修も実施している。	年1回、人権とプライバシー保護に関する内部研修を行い、感想文の提出で理解度を深めている。日常の介護場面に於いても、不適切な声掛けが無いよう職員間で注意し合い、特に排泄介助時は配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いを理解できるように日々のコミュニケーションを大切にしている。またいろいろな選択技を出して自己決定して頂けるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、その日の体調や気分に応じて無理のない生活が送れるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好みに合わせて清潔感のある身だしなみを支援している。訪問理容を希望される方は2ヶ月ごとに散髪・顔剃りを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みに合わせて献立を立てることもあり、また器など工夫することで気分を変えて食事を楽しんでもらえるように努めている。食事準備や後片付けなど、できる所は手伝いをして頂いている。	入居者の希望を取り入れ、職員が2週間交替で献立を作成し、週1回食材の買い出しを行っている。誕生者から食べたいものを確認し、当日は全員に特別メニューを配膳し喜ばれている。個々の機能に応じて下拵えや片付け等を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や形状は職員が常時観察、カンファレンスをもとに個々に合わせた調理を行い、安全で楽しく食事ができるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けを行い、個々の能力に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様の生活習慣や排泄パターンを評価しながら、それぞれのタイミングでトイレへの声掛けや誘導を行っている。	毎日、排泄・食事・水分量をチェックしており、個々の排泄パターンを把握し、トイレ利用に繋げている。入院によりオムツ使用になったケースがあったものの、本人の排泄リズムを把握して誘導し、リハビリパンツに改善された事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を促すことで脱水を防ぐとともに排便が出しやすい体内環境に留意している。個人に合わせ下剤の調整を主治医に相談しながら行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	その日の体調や気持ちを大切にしながら入浴支援をしている。職員とゆっくり会話を楽しんだり、入浴剤で温泉気分を味わって頂いている。	夏季は週3回、他は週2回の入浴となっており、拒否があった場合は時間をずらしたり、対応職員を替えたりしながら入浴に繋げている。入浴中、リラックスしているタイミングを見計らい、コミュニケーションを深めるよう会話に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣に合わせ、無理のないような対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に変更があれば症状の変化を観察し、状況によっては主治医に相談している。また調剤薬局と連携して薬の一包化等、相談を随時行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の笑顔の出るタイミングは様々でその方の嬉しい、楽しいを暮らしの中で発見し職員間で共有し気持ち良い時間をより多く持つて頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により外出の機会は少ないが、ドライブがてら思い出の地を巡ったり、通院の帰り、寄り道をして桜やつつじ見学ができています。天気の良い日は外で体操を行ったり事務所周辺の散歩で気分転換やストレス解消を図っている。	天候に合わせて外気浴を兼ねながら近場を散歩している。コロナ禍のため外出先で降車する事は無いものの、希望の場所にドライブに出掛け、車窓から景色を楽しんだりする等、閉じこもりにならないよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度のお金については事務所で預かっていて、買い物の際には財布を持ってレジで精算できるように支援しているが、新型コロナの影響を受け、お金を使用できる機会が持てていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	持参の携帯電話や施設の電話を通じ、いつでも話せるようにしている。時に「元気でいます」と絵葉書を送ることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の暮らしを感じて頂けるよう共有空間を明るく清潔にし、過ごしやすい環境作りや季節感を感じて頂けるような環境整備に努めている。	季節に合わせた飾りつけを行い、月日の移ろいを体感出来るよう工夫している。大振りのソファが置かれ、食後も寛いでいる入居者が多く、大きな窓からは日々表情を変える日本海を臨め、採光も良い。温湿度を管理し感染対策もとられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個別に居室で過ごされたり気の合った入居者様同士がくつろげるような席の配置になるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や手紙、作品、ぬいぐるみなどを飾り居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。身体状況に合わせてベッドの高さを工夫している。	自宅で使っていた机や椅子、衣装ケース等の持ち込みがあり、壁には家族写真や活動で作成した自分の作品を飾っており、個々の生活スタイルを大切にしたい空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に自立した生活が出来るようにバリアフリーとし、廊下や居室、トイレ、浴室などに手摺の設置をしている。安全な移動と転倒防止に努めている。		